

今年の共通テスト分析 速報版

文系、理系ともに平均点が上昇しました。要因は数学①②ともに易化した点が大きいです。ただし、リーディングと国語でやや平均点ダウン、倫理・政経と生物が難化しました。倫理・政経は主に難関大をめざす文系受験生がとる科目です。その影響もあり、文系の平均点は理系ほど回復はしていません。おそらく近隣では東北大学を中心に、二次試験勝負の入試になると思います。また、生物は得点調整がはいることが発表されました。得点調整とは、選択した科目によって難易度に差が出た場合、公平さを担保するためにおこなわれる措置です。具体的には、生物選択者に加点されます。物理または生物を選択するのが理系受験生が大多数ですが、その得点差が大きいと合否にかなり影響します。調整後の分布には変化があるため、要注意です。

全体として、複数資料を読み解き、正解を導くスタイルの問題が、どの科目でも共通しています。共通テストはまだ3年目。今後、多くの分析がなされ発表されます。また続報します。

私たちが新庄北高校教員が大切にしているもの ～進路を決めるための心得～

共通テストの自己採点が終わり、3年生はいよいよ出願となります。三者面談（場合によっては電話や二者面談）で、担任の先生の分析、保護者の考え、そして自分の現状を突き合わせて、受験生は「決断」をします。この決断は、人生の大きな分岐点になることは間違いありません。私たち、新庄北高校教員は以下のような点を大切に、未来の社会人の大きな決意を後押ししています。1、2年生のみなさん、いずれ会いましょう。

1. 得点とは、これまでの頑張りを数字にしたもの。しかし、あなたの未来を狭めるものではありません。

〇〇点とったら、あの大学はいける、それ以下なら無理だ……。世間には、「心無い大人」が増えてきました。特に顕著なのが、哀しいことに学校関係者です。

人生において、「試練」や「山場」は必ずあります。そして、それは必要だと思います。その1回にむかって準備する過程に、学ぶべきものがたくさん詰まっているのは間違いありません。ただ、その結果に「是非」があるとは思いません。日本の大学入試は、合否を決めるためのもので、受かる生徒がいれば、必ず落ちる生徒もいます。結果が残念だった人が否定されるような社会や組織は、高校生の生活にはありませんし、あってはならないこと。当然、全員が高得点ではありませんし、低得点でもない。そして何より大学入試に関わる学力は、全員平等のスタートではない。高校入学までにある程度の学力差は存在する。だから、それぞれが目指すゴールがあり、多様な努力が肯定されているのです。あなたの未来は明るい、そう思って受験生と話しています。

2. 数字にならないものこそ大切にしている。

進学校という場所は、「入試で高得点をとれる準備をすればいい場所」という人はいなくなりました。「高校生活」という言葉通り、クラスで息をして、部活で肩を並べ、笑って昼食を食べ、一緒にトイレに行く。心が通う、とはそういうことであり高校生活とは、心を通わせる3年間ということ。少し大げさかもしれませんが、数字にはならないものを、実は大切にしているのです。

もしかしたら若いみなさんは、「これしか点数とれないのか。こんなの進学校の生徒じゃない」と、声高に話す大人（これはいつの時代も年配の方に多い）に出会うかもしれません。（社会人になっても同様のグサッと来る時があると思います。） そんな時は、こう思ったらいい。「それって、あなたの主観ですよ。あなたの結果に対して意見が言えるのは、親、授業を担当した先生、です。それは、毎日あなたの「生活」を見ていた人たちです。彼らにだけ「数字にならないものが見える」からです。それこそがあなた自身であり、あなたの姿だと思ふ。数字じゃない。

3. でも得点することは大事。しかし、もっと大事なものは「得点できたこと」。

この大学を目標に頑張ってきました、受験させてください・・・、というやり取りは高校では基本成立しません。なぜなら、受験するかしないかはあなたの自由だからです。私たちが、あなたが夢見て進んでいる姿を邪魔するわけがない。だから、返事は「おう、がんばってこい！」。

ただ、その決断が「今までの頑張りを台無しにする」場合は、止めます。よく受験生には、「共通テスト自己採点で、目標点まであと50点たりなかった。でも挑戦させてほしい」という言葉を言います。これは正直、担任が心悩む場面です。当然、保護者も悩みます。なぜなら、①本人が頑張ってきたことはよく知っているから、②受験生の自己採点結果から希望大学までの距離が「現実」として目の前にあるから、です。受験生の心は、自己採点の得点が基準に届かないと分かった時、「ここでこの大学を受けなかったら、今までの努力が無意味になる」という考えになりがちです。とても気持ちは分かる。それだけ真剣だったから。しかし、これは少し間違った（別の言い方では「もったいない」）考えです。考え方が真逆かな。これはぜひ分かって欲しい。

これまでのあなたの努力があったから今の得点があり、それを無駄にしようとしているのが今のあなた、なのです。受験勉強という必死の努力で勝ち取った得点です。大学受験には挑戦はありますが、「けじめ」や「筋を通す」といったことはない。頑張りの証、大切にしてほしい。

大学入試に「奇跡の大逆転」はありません。あるのは「必然の大逆転」。あなたが逆転できる受験生なら「おう、がんばってこい」、あなたか逆転が難しい状況なら「ちょっと視野を広く持った方がいい」。この判断はあなたを外から見ていた担任と教科担当の先生にまかせてられています。あなたの頑張りで入学する大学に、素敵な出会いがあり、かならず夢までの「今まで知らなかったロード」があります。

4. 担任もクラスの一員だ。

生徒40名・・・・。もう1人います。担任の先生もクラスメイトであることを忘れないでください。ともに勝ち取りたいのです。あと年次主任も。

受験勉強はいつからか。そしていつまでか。

スタートしたのは、もしかしたら、君たちが「新庄北高校」という名前を意識し始めた中学生から、はたまたこれまでの人生の最初からかもしれません。確かなのは、まだ終わっていないこと。さあ、最終ラウンドの2月。3月です。激励文です。

共通テスト後の最初の土日。全国の高校では、2次試験にむけて面談が毎年行われています。幸なことに、私は過去何度か、この面談で現役受験生と触れ合うことができました。時には担任として、時には担任の先生の補助として、その人生の岐路に立ち会い、精一杯支援できたことを嬉しく思っています。今日は、その経験で分かったことを話します。

数年前のあるクラス。

担任「判定がAですね。他の志望者との比較を見ても、ぶっちぎってます。そして、あなたには何より、二次力がある。二次の配点高いけど、大きなミスさえしなければ、大丈夫でしょう。自信もって行ってきなさい。」

・・・そこから1カ月、学校で彼を見なかった日はなく、彼ほど机にかぶりついていた生徒はいない、と思うほど「受験勉強を詰めた」。そうして、2次試験に臨んだT君は、高倍率の中で見事合格。3年間の彼の努力が実った瞬間でした。

努力は本当に裏切らないことがわかりました。

数年前のあるクラス。

担任「前期は2次勝負。頑張ってこい！！ただ、問題は後期日程だ。この学部の後期入試は、あなたの強みを最も活かせる。だから、前期がダメでも最後まであきらめんように。」

・・・前後期とも同じ大学を受験したW君。前期は不合格。しかし、3月25日発表の後期で合格しました。彼は、前期日程終了後も毎日学校に来て、「後期対策を完璧にした」。見事。

最後まであきらめない という意味がわかりました。

数年前のあるクラス。

生徒は熱く語る。

生徒「先生、自己採点の結果はいまいちだったけど、ここの大学は2次の配点が高いから、ここで勝負したい。この大学を出てないと、僕が本当に行きたい大学院には行けないんです。」

担任の眉毛がピクリと動く。その後、沈黙、沈黙、そして沈黙。

担任「・・・よし、お前さんは、今すごく伸びているから、逆転もある。ここは勝負だ」きらりと光るI君の目。そしてI君は見事合格。

二次逆転ということがわかりました。そして、信念の強さを意味がわかりました。

しかし、受験は競争の世界。必ずしも全員が・・・というわけではありません。

数年前のあるクラス。

超難関大を志望のR君。自己採点結果もドッキングも判定はA。

担任「過去の受験生のデータと君の成績を並べると・・・。過去に合格した子と、残念だった子の成績の伸びを、君の成績と比較すると・・・」

担任が準備した精選された資料と話を聞けば、誰もがR君の合格を疑いませんでした。そして、2次対策にまっすぐに取り組みました。しかし、結果は逆転されました。

2次試験の怖さ、受験の過酷さがわかりました。

R君は、さらに1年間の勉強をへて、その大学に合格しました。浪人生として職員室に訪れたR君。ものすごい安堵の顔から、

浪人したからといって必ず次合格するわけではないということがわかりました。

数年前のあるクラス。

いつだって陽気な生徒が語る

生徒「〇〇大学と××大学。どちらにしようか迷ってます。ん～、先生どっちがいいですか」
えっ！！・・・担任の先生ではなく、たまたま補助で面談に参加していた私に答えをもとめました。私は困惑します。なぜなら志望先が難関大ばかりだから。本心は“合格できるところでいいのでは”と思いながらも・・・

私「昔から、××大学より、〇〇大学の活躍をよく耳にするけどね。」

生徒「あ～そうですか。じゃあ、〇〇大学にします」・・・ええええ～！！

見事〇〇大学に進学したTさん（こんな子もいるのだな）。その後に出会いました。大学生になった彼女はこう言います。

「先生、あの時はありがとうございました。〇〇大学サイコーですよ！！なんか頑張ってる感じを、自分で実感しています！！」・・・・・・・・お、おう！がんばってくれよ。

進学した先でどう頑張るかが大切、ということがわかりました。

君たちに母校は新庄北です。だから自信を持とう。そんな環境で君たちは学んできたのです。

先生の言葉をよく聞こう。そんな君たちを、ずっと見てきたのです。

そして、自分の努力を信じよう。必ず実ります。

最後に、実証済みの国公立入試受の鉄則を2つ

①最後まであきらめない人が、絶対勝つ

②進学した先で、頑張ったやつが本当の勝者！！

さあ、勝負の1カ月です。